

上田高等学校同窓会中南信支部会報

ルーツは三百年前の上田藩！だから……

菅谷松本市長を訪ねて



上田高校出身の初の松本市長、菅谷昭さん(60期)を訪ねました。

昨年三月の市長選で初当選して二年目、市長室は市役所の二階、歴代の市長の写真がかかった大きな応接室を通り抜けた奥にありました。

菅谷さん出身の稲荷山は、長野高校通学との境界線ですが、菅谷家は宝永三年(一七〇六年)に但馬の国から松平氏が上田藩に移封されたときの家老職、そんな縁で菅谷家は歴代上田中学、上田高校。医者の家系というところで、信大の医学部に入學、小宮山淳(56期)信大理事長と同級の兄とすぐ上の兄との三人が同時に信大医学部に在籍されていたこともあったそうです。

信大医学部在学中は六年間野球部に在籍し、センターで活躍、全国の医学部の大会で優勝も経験。医学部大会といつても私立大学からは甲子園経験者も出てくる高いレベル。今年の夏の甲子園には松商の応援団長だった助役とともに応援予定だったものの採用面接で断念。今でも、心は現役の野球少年。卒業後は聖路加国際病院で、米国式の医学に大きな影響を受けながら研修。米国色の強い病院での研修はスト破りと同じということ、同級で沖繩の病院で研修を受けた諏訪マタニティークリニックの根津先生(十回総会の講師)と二人一緒に同級会から除名扱いになったこともあったそうです。

その後信大に帰り、甲状腺関係の専門家に。米国の学会の帰り、飛行機の中で、「これからどう生きるか」「原点に帰ること」を考えたそうです。原点とは、「あの医者に診てもらって良かったな」「良い医者だね」と言われること。「専門性を生かし社会貢献をしよう」の意思決定をしたそうです。その時四十三歳。お母さんが七人兄弟の末っ子の身を案じ、易者に見てもらった結果「死ぬ」と予言された歳でした。

アフリカでもアジアでもどこでもイイ……と思っていた矢先に、チエルノブイリの原発事故が起きました。甲状腺の専門医師であることを活かせる！NGOで活動していた神宮寺の高橋和尚や、鎌田実医師らと出会い、一九九一年から五年間現地に滞在。五十歳の時には退職して現地の患者の診察を継続しました。この辺のいきさつは、NHKの二本のドキュメンタリーや「プロジェクトX」で紹介され大変話題になりました。市長になった昨年こそ行けなかったものを、これまで毎年現地での診察を続け、今年も七月にベラルーシに渡り、二日間で六五〇人の患者を診察しました。現地の医師団が確実に育ち(写真上)、手術を受けた娘さん達がきれいに成長し、右から看護師、医師、母、助産師になりました。(写真下)

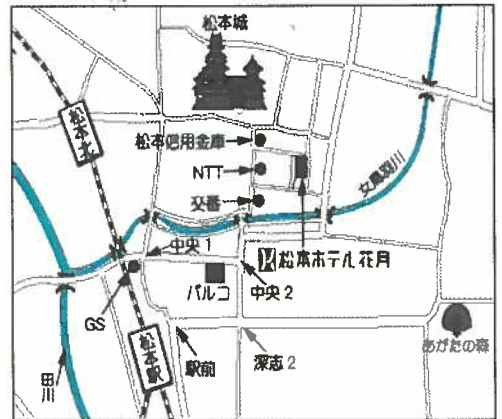
発行人: 小林茂昭
上田高等学校同窓会
中南信支部事務局
連絡先: 0263-85-1599
題字: 松岡翠鳳(仁太郎)氏
南安置在住(39期)
全日展書法会副会長 他



菅谷さんは医療者の視点で、医療・保健・介護・子育て支援の充実など、市が主導でなく、市民のアイデアをもらって、市民の活動を行政がカバーする主体の活動を行政がカバーする市政を運営したいとの意気込みでした。「私のやり方が徐々に浸透してきたかな」と今、実感しているそうです。なれてきた二年目は「じつくり」そして三年目は「積極的に」。同窓生菅谷昭さんの静かな気迫を感じました。

～第12回総会のご案内～

日時: 11月19日(土) 開場13:30
場所: 松本ホテル花月 松本市上土 電話 0263-32-0114
次第: 14:00~15:45 第一部 総会・記念講演
16:00~18:00 第二部 懇親会
会費: 8,000円(通信費含)、第一部のみは1,000円
(同封の返信ハガキで出欠をお知らせください)



記念講演 「メディアのきのう、きょう、あした」

メディアが果たしてきた役割と現状、これからどう変わろうとしているかを、ご自身のNHK等での体験談を交えてお話いただきます。

講師: 黒川 次郎 氏 (54期) 横浜市在住



昭和12年 東京都生まれ
20年 青木村に疎開
28年 上田松尾高校 入学
31年 東京大学文科一類 入学
35年 日本放送協会 入局
平成 3年 会長室「経営計画」局長
5年 日本放送協会 監事
9年 財団法人 NHK 放送研修センター理事長
13年 同 顧問
17年 成蹊大学文学部 非常勤講師
この間 東京大学新聞研究所 講師
新潟大学法学部 講師 等 歴任

主な論考

- 放送法概論「ニューメディアと放送・通信法」所収 総合労働研究所
- 放送制度の将来と番組編集の自律「岐路に立つ日本のジャーナリズム」所収 日本評論社
- 放送人育成のために「論争いま、ジャーナリスト教育」所収 東京大学出版会
- 放送制度の仕組みと今後の展開「放送を学ぶ人のために」所収 世界思想社 等

思い出

田中(母袋)瑞穂 (58期)



今年「昭和八〇年」とすると私が高校に入学したのは昭和三二年、だから遙か遙か昔のことになってしまいました。

入学式：女子は六人が同級生でした。担任発表で、吾が六組は「岩下美千穂先生」とあったので、女子の居るクラスには女性の先生が担任になるのだと思いついて、登壇した各クラスの先生の名前と顔は憶えなければと先生方を見つめるのですが、女性の先生は居らず、真ん中の大柄な一番がっしりとした先生が、通称ガンチャンの岩下先生でした。ということだけは最初の思い出として浮かんできます。

当時は運動部の活躍は目覚ましいものがあり、学芸部も結果を残していたと思います。好きだった合唱がやりたくて、合唱部に入部を頼みにいったところ、高校男声合唱団として勇を馳せていたクラブだったから、全校の女子十一人が全部入らなければ駄目だと云われたことも苦しい思い出の一つです。高校時代に両親を亡くしたこともあって、無為でやる気もなく終わってしまったというところで、私にとっては思い出したくない時期にもなります。早く故郷から飛び出して行きたかった私の大学受験は諸事情から、上田から

心技体と風姿花伝 支部長 小林茂昭(54期)



私は近頃この二つの言葉にとり憑かれています。所属する学会で「脳外科医の心技体」の講演を依頼されたからである。長年手術ばかりに精力を費やしてきた自分にとっては途方にくれるテーマであった。一方、定年退官した身では「妥当な依頼かな」とも思ったりして一年がかりで準備にかかった。

いろいろな人に意見を聞いてみた。54期の岡崎光雄君は、「旧力士曙が対ボブサップとのK1試合で体力は抜群でも技が伴わないため惨敗した例をあげ、心技体のバランスの大切さを述べた」という面白い示唆もあった。確かに脳外科医には長い手術に耐え得る体力と、高度な技術と、精神力に加えて患者への思いやりの心がなくてはならない。そしてその心技体のバランスが良くなければならぬ。しかしこれは急に会得できるものではなく若い時代から長年かけて修練し経験を積む中で磨いていかねばならない。また人は何時までも若いままではおられずれば老いていく。

そんなことを考えているうちに、室町時代に能芸の理論を大成させた世阿弥の「風姿花伝」を示唆してくれた友人がいた。それを読んでいくと感嘆した。能芸の達人になるための訓練の方法と加齢論である。昨今問題の教育論



通学出来る大学へという枷がはめられ、数学が全然ダメだった私には受験科目に数学がない県短大へ進学しました。勿論短大では合唱部に入部し練習に明け暮れました。短大は女性合唱だったので、信大工学部の男声合唱団と交

渉会が伝統的に持たれて、混声合唱を練習していました。その工学部の人達の中に上田高校の先輩方が多くおられ、短大の部長の私は、種々助けていただいたのも、今思い返せば同じ学び舎で学んだ縁でした。

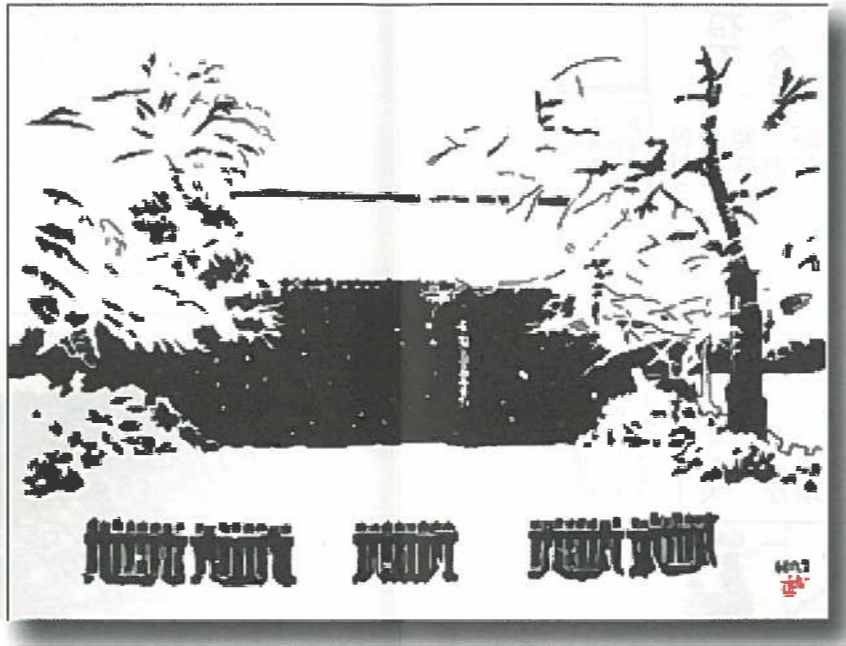
同級会・クラブOB会はこの学校でも盛んに開かれているのは同じだと思えます。中南信地方、特に南信地区にも沢山同窓生が居られることを数年前の中南信支部総会に参加して知ることが出来ました。うれしかったです。同窓会には同級会・同期会に比べて、やや遠い存在になってしまいがちですが、年令の垣根を超えて集う会なので、益々盛況に開かれることを願っています。

が卓見をもつて見事に展開されていること、体得した技術がいかにかわいて行くかが味わい深く書かれている。

まず稽古はじめの子供の頃は、無理強いすることなく、自由にして興味を持たせるようにすること、青年期に充実しても慢心することなく更に精進せよ、そして老年期には「老いたりといえども花は残るべし」として老人の技術にも光るもの、学ぶべきものがあるとしており、特に退官のわが身では最後のくだりが嬉しく感じた。いずれにせよ心技体と風姿花伝を組み合わせて講演の役目を昨年無事終えた。

頭の中が「心技体・風姿花伝」モードになってしまった私は、心技体の主語を看護師、薬剤師、医療人、人生、等々に変えてあちこちの集会で話すはめになった。また本年一つの海外学会で講演したが、結構反応が良く日本の武道精神と伝統芸能の紹介に一役かっているかなと錯覚さえした。こうして去る八月に東京で行なわれた「世阿弥セミナー」に二日間参加して知識をやや深めた。以前観るたびに居眠りをしてきた能芸であるが、何か自分の中で生き生きして来た感がある。

このところ医学書より能の本の購入が多い。「脳の中の能舞台(新潮社)」という本まである。以上、脳外科医の「能」の話でした。



校門雪景色 58期 武村洋治

職場訪問 八十二銀行の巻

今回は長野県を代表する金融機関八十二銀行を訪ねました。最初に伺ったのが、塩尻市広丘支店長の湯原儀芳さん(72期)旧更埴市出身。



中学時代の野球部の経験を買われて、上田高校では丸山・沢

沢バツテリー(後明治のエース・東大の捕手・主将)がいた野球部に誘われましたが、野球を断念して勉強に専念、おかげで、一橋大学法学部に現役で合格したそうです。

大学時代は近くの津田塾大生と「読書会」を年数回開催。「読書会」をネタに合コンをするというのは、如何にも一橋大生という感じがしますね。昭和五三年、長男と云うこともあって地元八十二銀行に就職。上田支店に配属。配属された男二、女十六の中に生涯の伴侶である奥さんがいたそうです。

その後、貿易研修センターやドイツ銀行での研修を経て平成六年まで国際関係の仕事に従事。ドイツ銀行では、金融未発達国からの研修生を無償で受け入れていました。風呂にあまり入らない風習の国の人とホテルで同室になって、その体臭に悩まされたり、東欧やアフリカのエリート達と異文化の交流も経験。その時、キリスト教文化のエチオピア、タンザニアの人には、共通の価値観を見出したものの、イスラム圏の人とは価値観が大きく違うことを感じたそうです。



次に長野の本店にお邪魔しました。頭取、山浦愛幸さん(63期)。笑顔で対応していただきましたが、一見して、堂々の偉丈夫。ラ

グビーでもやれば、二・三人をひきずってトライしそうな迫力を感じました。旧滋野村の出身。高校では勉強に集中し、東大農学部へ。滋野中学から上田高校に入学した二人とも東大に行きたそうです。驚きです。大学三年の時に高校の校長だった父上が急逝。教職をとろうと思ったところが一年では無理というところで、当時県内で多分唯一(?)上場していた八十二銀行に入行。昭和四四年、安田講堂攻防で東大入試が中止になった年です。

「農学部」の農業機械専攻と銀行では畑が...?との問いに「大学の専攻なんでも、どこへ行っても同じだよ。あんたもそうでしょう!」ハイそのとおりです。小諸支店の後、本部で人事・企画を十五年。「酒飲んでただけだよ」とご謙遜。このころ社内結婚。



その後、上田で副支店長、県庁支店で支店長...そして同窓会中南信支部の設立に尽力された成澤一之さん(55期・現会長)の後任として頭取に就任にしました。

今、規制緩和、銀行統合等激動の時代になり、地銀が各県で生き残れるかという緊張感の中で、金融コングロマリット(複合企業体)を目指し、新しいビジネスモデルに取り組み、八十二銀行。その新しいエネルギーシナジーリーダーの姿を見たような気がしました。

知ってましたか?

- 八十二の数字へのこだわりを
・ 本店 前が二階で後ろが八階
・ 電話番号の下二桁はほとんど

田中茂樹(31期)松本市
 老齢ではありませんが、鈴木鎮一先生の才能教育の理念を守って設立した白百合幼稚園が昨年で二十五周年を迎えました。

本山睦夫(38期)下諏訪町
 老いても元気で毎日を有意義に過しております。

宮澤忠明(44期)三郷村
 自家用野菜作り、庭木いじり等にて日々を送って居ります。折々、ペンを持って自作の詩など書きなぐっています。

会員短信

昨年の返信人がきなどから



花岡良一(46期)松本市
 体調は良く、読書、散歩、雑用の毎日です。

篠田修(54期)松本市
 週末には温泉に行き、入湯してジョッキ一杯のビールを飲み、昼寝して帰る。時には我乍ら進歩のないゴルフをやり、プロ野球の季節にはテレビで巨人の負けることの多い試合を観戦し、また時には時間単価の安いアルバイトに行くなど取り柄のない暮らしをしています。

中沢健二(55期)松本市
 長年勤務した石川島芝浦機械(株)を昨年六月末で退職しました。現在は長野雇用開発協会の高年齢者雇用アドバイザーなどで多忙な日々を送っています。

北沢和雄(56期)松本市
 定年退職後、精神障害者の家族会の活動に参加して四年、昨年四月にグループホームを立ち上げました。その開設の祝賀会に菅谷市長が多忙な中参加いただき、関係者一同、感謝感激でした。

池田誠一(58期)豊科町
 ISO9001(品質マネジメントシステム)の登録審査員の仕事で全国を廻っています。

丸山(伊藤)勝彦(61期)豊科町
 平成十五年三月末日、三十五年勤めた長野銀行を定年退職しました。今は区の役員と五人の孫相手に充実した日々を過ごしています。

荒木茂樹(64期)茅野市
 音楽仲間と一緒に保育園や老人施設を訪れ、音楽ボランティアを楽しんでいます。園児のキラキラかがやく目が私達のはげみの源になっています。

北野由紀(78期)松本市
 田川高校で日々今どきの高校生に振り回されています。会報を通じて自分の高校時代を思い出して懐かしんでいます。

北澤(有川)尚子(81期)松本市
 同期の友の記事でいみじくも中信で近いうところにいるのだと知り、他の同期の友とも久しぶりに連絡をとり話に花が咲きました。

西沢俊一(82期)松本市
 二〇〇四年度より松本深志高校野球部の監督をしております。母校野球部の活躍に刺激を大いに受け、文武両道に邁進しております。

鎌倉(船田)清子(84期)松本市
 昨年四月より中高交流で松本美須ヶ丘高校に勤務しています。義務教育との違いに戸惑いながらも毎日新鮮な気持ちで頑張っています。高校生に接しながら自分の高校生活を思い出すことが多くなりました。

生島一真(84期)三郷村
 キッセイ薬品に入社以来手がけてきた薬物を、昨年新薬として世の中に送ることができました。こちらに来て八年目、私にとつて大切な節目となりました。これに甘んじることなく邁進したいものです。

三澤(滝之入)文(85期)小谷村
 榎池高原スキー場のグレンデ前の宿にきて十一年目となりました。

小池奈津子(85期)岡谷市
 出産、育児で一時中断した教員生活をまた始めて今年で三年目です。自分の子どもたちもふくめて、子供たちと生活していると考えさせられること、勉強になることが多いです。

真道茂絵画展(五月二二日～二九日)を終えて

真道茂(54期)

東京の駒込駅近くにある古河庭園では、東京都公園緑地課による春秋(年二回)十日間のバラ園のライトアップを行っています。
 NPOバラページェントはその間、バラの販売や音楽会を開催し、十万人を越す人達が来園しています。それから、文化活動の一環として個展の開催を依頼され、古河庭園にほど近い北里画廊にて五二点の岩彩の作品を展示しました。十年ぶりの東京での個展でしたので多数の方々がお来場下さいました。



古河庭園のバラ園



会場の北里画廊にて



最愛の孫たちと